

# 最近の顕著な地震の表 (1951年~1960年)\*

勝 又 護\*\*

550.34

さきに、筆者は1935年から1950年までの期間の日本付近の顕著な地震の表(験震時報16巻2号, 1952年)を編集したが、以来10年余を経過したので、その表のつづきともいべきものを作製した。

1951年から1960年までの10年間には、1960年チリ津波による大災害があったが、国内の地震による災害は比較的少なかったといえる。すなわち、この期間に災害を生じた地震は、ごく軽微な被害のものまで入れて24回(津波によるものをふくむ)があったが、1952年十勝沖地震の災害がもっとも大きく(チリ津波を除いて)、このほかには死者を出した地震は4回にすぎなかった。

津波は11回が観測され、そのうち被害を生じたものは4回であった。

## 図、表の説明

1. この表に収録した地震は、1951年から1960年までの期間に発生した地震のうち

- a. 日本国内で被害のあった地震
- b. 日本沿岸で津波がみとめられた地震
- c. 地震観測官署において震度IV以上を観測した地震である。第1図にその分布図を示してあるが、各地震の分類記号は図中の左上に記してある。なお、図には上記以外の地震でも Magnitude 6 以上のものは記載されている。

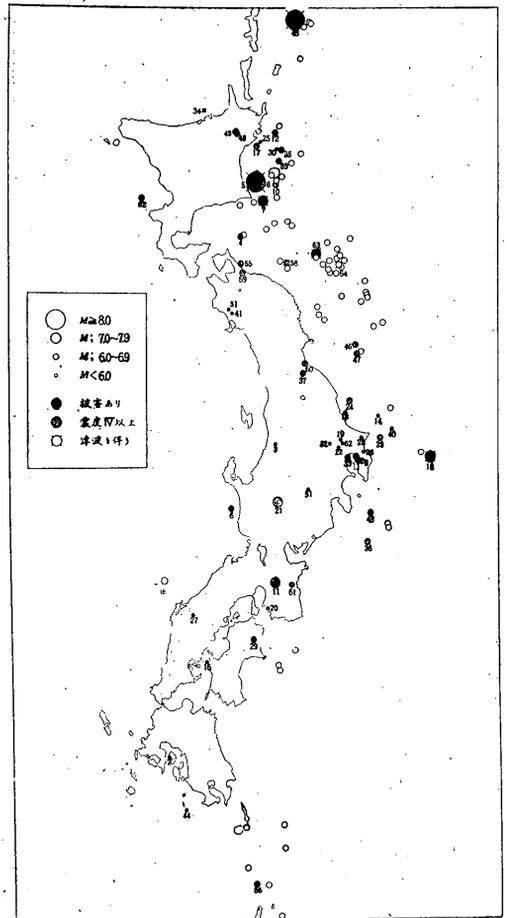
2. 震央分布図、地震の表、文献の表に付けてある番号は、三者を照合するための共通番号で

- a. 番号が太字にしてあるものは被害を伴った地震
- b. \* 印は津波をともなった地震
- c. ○印は調査報告の出版されている地震(文献の表参照)

を示す。記事欄にあるローマ数字と地点名は各地の震度(IV以上)、括弧内の数字は東京における震度である。

3. 震源事項その他の資料は、主として地震月報各号によったが

- a. 1951年から1956年までの期間の Magnitude は“地震月報別冊1(1958年)”のものを用いた。
- b. *M*に括弧を付してあるものは Pasadena (California Institute of Technology) による。
- c. 外国地震の震源事項は、U. S. Coast and Geodetic Survey のものを用いた。



第1図 顕著な地震の震央分布図(1951年~1960年)

\* M. Katsumata: List of Major Earthquakes in and near Japan, during the Period from 1951 to 1960 (Received June 1, 1961).

\*\* 気象庁地震課

第1表 顕著な地震の表 (1951年~1960年)

番号	発震時		震源			M	記 事							
	月	日 時 分	地 名	°N	°E			深さ km						
1	1951 (26)		千葉県中部	35.4	140.1	40	6.2	IV:東京, 横浜, 銚子. 千葉, 神奈川県の一部で軽微な被害あり. (IV)						
	I	9 03 32												
	2	II 15 16 11							長崎県温泉岳付近	32.8	130.2	0~10	5.4	IV:温泉岳.
	3	VIII 2 18 57							新潟県南部	37.1	138.5	0~10	5.2	墓石の倒壊, 炭焼小屋の破損, 窓ガラスの被害等あり.
4	X 18 17 26	青森県北東沖	41.4	142.1	40	6.5	IV:青森, 八戸. 八戸市内で壁, 煙突等の破損あり. (I)							
** 5	1952 (27)		北海道襟裳岬沖	42.15	143.9	45	8.1	V:浦河, 帯広, 釧路. IV:札幌, 根室, 森, 函館, 青森, 宮古. 地震は北海道十勝, 釧路, 日高地方で強く, 津波は北海道南東岸から三陸沿岸に被害及ぼす. 被害合計死者28, 負傷者287, 行方不明5. 家屋全壊815, 半壊1324, 一部破損6395, 全焼14, 半焼6, 流失91, 浸水1621. 船舶の沈没破損流失451. その他漁具, 鉄道, 道路, 橋梁, 電力, 通信, 水道等の被害大. 津波は厚岸湾周辺で3~4m, 八戸で2m. (II)						
	III	4 10 23												
° 6	III 7 16 32	石川県南岸沖	36.5	136.2	20	6.8	IV:福井, 輪島, 富山, 福井, 石川県の一部で被害あり, 合計死者7, 負傷者8. 家屋半壊4, 一部破壊82焼失27. (I)							
* 7	III 10 02 04	北海道襟裳岬沖	41.7	143.5	0~20	7.0	IV:帯広, 浦河. 地震により北海道南部でごく軽微な被害あり. 小津波あるも被害なし (八戸で30cm). (I)							
8	IV 28 19 54	北海道襟裳岬沖	42.0	142.8	30	6.3	IV:浦河, 室蘭.							
9	V 8 09 58	千葉県中部	35.45	140.15	50~60	6.1	IV:横浜. (III)							
10	V 20 03 32	北海道南東岸沖	41.8	144.1	浅	6.6	IV:帯広. (I)							
° 11	VII 18 01 10	奈良県北部	34.45	135.8	70	(6 <sup>3</sup> / <sub>4</sub> )	IV:橿原, 京都, 津, 大阪, 尾鷲, 神戸, 龜山, 洲本, 彦根, 和歌山, 姫路, 岐阜, 名古屋, 豊岡, 福井, 岡山, 鳥取. 奈良, 京都, 滋賀, 大阪, 兵庫の各府県始め和歌山, 三重, 愛知, 岐阜, 石川の各県のところどころで小被害あり. 被害合計死者9, 負傷者136. 住家全壊20, 半壊26, 一部破損278. その他道路, 橋梁, 鉄道, 田畑等に被害あり. (II)							
12	VII 25 07 09	北海道南東岸沖	42.7	145.3	60	6.2	IV:釧路.							
13	VIII 16 04 59	茨城県沖	36.5	140.8	45	5.5	IV:水戸, 筑波山. (III)							
14	X 15 09 10	千葉県銚子沖	35.9	141.4	40	5.7	IV:銚子. (I)							
a	X 26 ~ XI	上旬:岩手県沖に地震頻発.												
**15	XI 5 02 01	カムチャツカ半島沖	52 <sup>3</sup> / <sub>4</sub>	159 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	浅	(8 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> )	北海道南岸, 三陸沿岸に04時過ぎより1~3mの津波あり, 浸水家屋1200戸, 漁業施設, 漁具等に被害あり.							
° b	XI ~ 19.53	冬:箱根地方に地震頻発.												
1953 (28)														
16	VII 30 17 24	愛媛県北岸沖	34.1	132.8	10~20	5.2	IV:松山.							
17	X 14 23 47	北海道南東岸沖	42.8	144.6	90	(6 <sup>3</sup> / <sub>4</sub> )	IV:釧路. (I)							

番号	発震時 月日時分	震源			M	記 事	
		地 名	°N	°E			深さ km
*18	XI 26 02 48	房総半島沖	34.3	141.8	40~60	7.5	V:富崎, 三宅島. IV:八丈島, 銚子, 大島, 横浜, 網代, 東京, 水戸船津, 甲府, 筑波山, 小名浜, 白河, 福島, 仙台, 猪苗代. 地震により伊豆諸島のところどころに軽微な被害あり. 房総半島ははじめ周辺の沿岸に津波があったが(銚子付近で約3m), ほとんど被害なし. (IV)
<b>1954 (29)</b>							
19	I 17 20 46	茨城県南西部	36.1	140.1	70		IV:水戸. (III)
20	III 22 06 54	和歌山県北部	34.2	135.2	10	4.7	IV:和歌山.
21	V 15 07 39	岐阜県中部	36.0	137.4	230~240	(6.9)	IV:小名浜. (深い地震) (III)
22	VI 5 22 14	茨城県西部	36.0	139.9	50~60	5.8	IV:宇都宮, 柏. (III)
23	VII 18 18 07	千葉県銚子沖	35.5	141.1	40	6.4	IV:銚子. (III)
24	VIII 28 19 01	茨城県沖	36.7	141.1	40	6.0	IV:小名浜. (II)
25	IX 17 20 52	北海道南東岸沖	42.8	144.8	50~60	5.1	IV:釧路.
<b>1955 (30)</b>							
26	I 17 11 21	千葉県中部	35.5	140.4	80		IV:横浜. (III)
*27	VI 23 22 41	鳥取県西部	35.2	133.4	20	4.5	IV:境. 鳥取県根雨町付近で石垣崩壊, 橋, 道路の破損, 窓ガラスの被害等あり. (5月22日ごろより小地震あり). (II)
28	VII 24 20 02	千葉県北部	35.7	140.7	70		IV:銚子 (II)
*29	VII 27 10 20	徳島県南部	33.75	134.3	0~10	6.0	IV:徳島. 徳島県那賀, 海辺郡で, 死者1, 負傷者5, 山くづれ20, その他トンネルの崩壊, 道路, 通信, 配電施設等に被害あり.
30	IX 5 04 09	北海道釧路南東沖	42.6	144.9	40	5.8	釧路.
*31	X 19 10 45	秋田県北部	40.3	140.2	0~10	5.7	秋田県二ツ井町で負傷2, 住家破損52, 非住家破損100, 鉄橋墜落1, 破損4.
32	XII 18 14 33	茨城県南西部	36.2	139.8	50	5.3	IV:宇都宮, 水戸, 筑波山. (II)
<b>1956 (31)</b>							
33	II 14 09 52	東京湾北岸	35.7	139.9	50	6.0	IV:東京, 横浜. 東京都で, 煙突, ガス管, 電力線等にごく軽微な被害あり. (IV)
*34	III 6 08 29	北海道網走沖	44.3	144.1	0~20	5.8	地震によりごく軽微な被害あり. 小津波あるも被害なし(網走で40cm).
35	IV 23 12 31	釧路南東沖	42.4	145.0	60	6.1	IV:釧路.
36	VIII 13 01 59	伊豆半島南方沖	33.8	138.8	40~60	6.5	IV:長津呂, 三宅島, 御前崎. (II)
*37	IX 30 08 20	宮城・福島県境	37.95	140.55	20	6.1	IV:福島. 福島県白石市付近で, 死者1, 重傷1, その他家屋, 鉄道, 電力施設等に小被害あり. (II)
38	IX 30 08 20	千葉県中部	35.5	140.2	70	(6 <sup>3</sup> / <sub>4</sub> -7)	IV:横浜, 東京, 柿岡, 銚子, 熊谷, 網代, 富崎. 東京都で負傷者4のほか, 一般建造物, 配電線等に軽微な被害あり. (IV)
39	X 12 21 22	北海道南東沖	42.2	144.8	40	6.0	IV:釧路.
c	XII 21 ~ 28	伊豆三宅島南方沖に地震頻発.					
<b>1957 (32)</b>							
40	I 9 19 27	銚子南東沖	35.4	141.5	40	5.5	IV:銚子. (I)
41	III 1 01 56	秋田県北部	40.2	140.3	0~10		秋田県二ツ井町でごく軽微な被害あり.

番号	発震時 月日時分	震源			M	記 事	
		地名	°N	°E			深さ km
*42	III 9 23 22	アリュシャン列島	51.3	175.8 W	浅	(7 <sup>3</sup> / <sub>4</sub> -8)	三陸沿岸地方に小津波あり(宮古で21cm)・当日波浪うねりが高がったため、津波による被害は明らかでない。
°43	XI 11 04 20	伊豆新島近海	34.3	139.35	0	6.3	式根島で石造家屋全壊2、半壊2、石垣崩壊20、石垣亀裂、屋根瓦ずれ等25。新島で石造家屋破損6、がけくずれ25等あり。(9日ごろより地震頻発)(II)
	1958 (33)						
44	V 26 02 40	鹿児島県西方沖	31 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	129 <sup>3</sup> / <sub>4</sub>	浅	5.2	IV: 鹿児島。
*45	XI 7 07 58	エトロフ島南方沖	44.3	148.5	80	(8-8 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> )	V: 釧路。IV: 根室、帯広、浦河、札幌、八戸、青森、盛岡。地震により釧路地方で電信線、鉄道施設、道路等に小被害あり。津波は北海道、本州の太平洋岸にあり、花咲港、三陸沿岸の一部で軽微な被害を生ず。(釧路地方霧多布で約2m、八戸で102cm)(II)
	1959 (34)						
46	I 22 14 10	福島県東方沖	37.55	142.35	30	6.8	IV: 仙台、福島。(II)
47	I 24 14 08	福島県東方沖	37.35	141.2	80		IV: 小名浜、福島、白河、仙台、水戸。(III)
°48	I 31 05 38 07 16	北海道東部 北海道東部	43.35 43.45	144.4 144.4	20 0	6.2 6.1	IV: 釧路。北海道弟子屈付近で住家 IV: 釧路。全壊2、煙突の倒壊、橋梁破損、通信線の被害等あり。(22日ごろより地震頻発す)
49	II 28 05 56	琉球列島	27 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	128 <sup>1</sup> / <sub>2</sub>	浅	6.0	沖水良島部で軽微な被害あり。
°d	IX ~ 1960	IV: 箱根地方に地震頻発。					
50	IX 24 07 23	山梨県西部	35.7	138.4	10	5.8	IV: 甲府、船津。(II)
51	XI 8 22 54	北海道西方沖	43.8	140.6	0~10	6.2	札幌、小樽地方でごく軽微な被害あり。
	1960 (35)						
52	I 14 19 25	茨城県南西部	36.0	140.1	80		IV: 柿岡。(III)
*53	III 21 02 07	岩手県沖	39.8	143.5	20	7.5	IV: 宮古、八戸、盛岡、青森、水沢、岩手、青森、山形県でごく軽微な被害あり。小津波あるも被害なし(八戸で81cm)。(I)
*54	III 23 09 23	岩手県沖	39.3	143.8	20	6.2	小津波あるも被害なし(八戸で16cm、鮎川で29cm)。
55	IV 15 20 38	青森県東岸沖	40.9	141.6	80		IV: 青森。
56	V 18 15 35	奄美大島北東沖	29	130	100		IV: 屋久島。
*57	V 23 04 11	テリ沖	38 S	73 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> W	浅	(8 <sup>1</sup> / <sub>4</sub> ~8 <sup>1</sup> / <sub>2</sub> )	この地震による津波は、24日02時半ごろより太平洋岸各地を襲い、波高は三陸沿岸で5~6mに及んだ所もあった。各地に被害を生じたが、北海道南岸、三陸沿岸、志摩半島周辺で特に著しかった。被害合計は、死者119、負傷者872、行方不明20。全壊家屋1571、半壊2183、流失1259、床上浸水19863、床下浸水17332、一部破損44、非住家被害3962。道路損壊177、橋梁流失44、堤防決壊124、鉄道被害21、船舶沈没94、流失1036、破損1143、その他甚大な被害あり。

番号	発震時 月日時分	震 地 名	源			M	記 事
			°N	°E	深さ km		
*58	VII 30 02 31	岩手県沖	40.2	142.6	30	6.7	IV:八戸, 盛岡, 青森. 小津波あるも被害なし(宮古で10cm).
59	X 9 18 00	青森県東部	40.8	141.35	100	(6 $\frac{1}{4}$ )	IV:八戸, 盛岡, 水沢, 青森.
60	XI 26 06 54	宮城県南部	38.1	140.75	100		IV:仙台.
61	XII 26 10 44	三重県中部	34.2	136.2	60	6.0	IV:京都, 津.

## 第 2 表 文 献 の 表

5	験震時報 17 (1~135)	十勝沖地震調査報告	1953
5	地震 5 (32~38)	小林	1952
5	地質調査所月報 4 (321~329)	早川, 猪木	1953
5	験震時報 17 (95~102)	地震課調査係	1953
6	〃 17 (103~104)	山下	1953
6	〃 17 (105)	中島	1953
6	〃 17 (107~108)	塚本, 中山	1953
11	〃 17 (83~96)	地震課調査係, 檀原測候所	1953
15	〃 18 (1~48)	カムチツカ地震調査報告	1954
18	〃 19 (42~70)	房総沖地震調査報告	1955
27	〃 20 (165~169)	米子測候所	1956
29	〃 21 (21~26)	徳島測候所	1957
31	〃 21 (27~41)	仙台管区气象台	1957
31	地震研究所彙報 34 (113~129)	嶋, 紫野	1956
31	〃 34 (373~380)	宮村, 岡田	1956
37	験震時報 22 (147~155)	仙台管区气象台	1958
37	地震研究所彙報 36 (65~70)	岡田	1958
43	験震時報 23 (15~33)	地震課技術係, 新島測候所	1959
45	〃 24 (65~89)	エトロフ地震調査報告	1960
48	〃 24 (47~56)	釧路地方气象台	1960
48	〃 25 (9~20)	札幌管区气象台	1960
48	地震研究所彙報 37 (531~544)	松本	1959
57	チリ地震津浪踏査報告 (1~870)	チリ津浪合同調査班	1961
57	気象庁技術報告 8 (1~388)	チリ地震津波調査報告	1960
b	験震時報 19 (24~27)	川瀬, 竹山, 野口	1954
d	〃 25 (109~120)	田中, 天野	1961